

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL3-007

契約の解消・債権管理 / 債権譲渡 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
債権は、原則として譲渡できる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：譲渡制限特約や対抗要件に注意する。
要点：債権譲渡

Q002 BL3-021

契約の解消・債権管理 / 保証 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：保証契約は書面などの要式が問題となる。
要点：保証

Q003 BL3-035

契約の解消・債権管理 / 連帯保証 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：連帯保証では催告・検索の抗弁がない。
要点：連帯保証

Q004 BL3-048

契約の解消・債権管理 / 解除 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
解除すると、契約違反の有無にかかわらず損害賠償請求は常に禁止される。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：解除と損害賠償は別に問題となることがある。
要点：解除

Q005 BL3-049

契約の解消・債権管理 / 抵当権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：不動産担保でよく利用される。
要点：抵当権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL3-062

契約の解消・債権管理 / 合意解除 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
一度成立した契約は、当事者全員が合意しても解除できない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：合意解除は当事者の合意に基づく。

要点：合意解除

Q007 BL3-063

契約の解消・債権管理 / 質権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：占有移転が重要な特徴である。

要点：質権

Q008 BL3-076

契約の解消・債権管理 / 相殺 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
相殺は、金銭債権同士でも絶対にできない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：相殺適状などの要件がある。

要点：相殺

Q009 BL3-077

契約の解消・債権管理 / 内容証明郵便 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：内容証明自体に強制執行力はない。

要点：内容証明郵便

Q010 BL3-090

契約の解消・債権管理 / 弁済 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
弁済しても、債務は絶対に消滅しない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：支払いや引渡しなどが典型である。

要点：弁済

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL3-091

契約の解消・債権管理 / 仮差押え / 形式：○×

次の記述は正しいか。
仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：財産散逸を防ぐために利用される。
要点：仮差押え

Q012 BL3-104

契約の解消・債権管理 / 債権譲渡 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
債権は、法律上どのような場合も絶対に譲渡できない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：譲渡制限特約や対抗要件に注意する。
要点：債権譲渡

Q013 BL3-118

契約の解消・債権管理 / 保証 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
保証人は、主たる債務者と無関係に常に無責任である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：保証契約は書面などの要式が問題となる。
要点：保証

Q014 BL3-132

契約の解消・債権管理 / 連帯保証 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
連帯保証人は、催告の抗弁権と検索の抗弁権を常に行使できる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：連帯保証では催告・検索の抗弁がない。
要点：連帯保証

Q015 BL3-145

契約の解消・債権管理 / 解除 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：解除と損害賠償は別に問題となることがある。
要点：解除

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL3-146

契約の解消・債権管理 / 抵当権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
抵当権は、必ず債権者が目的物を占有しなければ成立しない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：不動産担保でよく利用される。

要点：抵当権

Q017 BL3-159

契約の解消・債権管理 / 合意解除 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：合意解除は当事者の合意に基づく。

要点：合意解除

Q018 BL3-160

契約の解消・債権管理 / 質権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
質権では、債権者が目的物を一切占有しないことが必須である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：占有移転が重要な特徴である。

要点：質権

Q019 BL3-176

契約の解消・債権管理 / 解除 / 形式：2択

次のうち、「解除」について正しい説明はどちらか。

1. 定型約款は、どのような内容でも相手方を必ず拘束する。
2. 解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。

答え・解説

正答：解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。

超簡単な解説：解除と損害賠償は別に問題となることがある。

要点：解除

Q020 BL3-177

契約の解消・債権管理 / 抵当権 / 形式：2択

次のうち、「抵当権」について正しい説明はどちらか。

1. 抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。
2. 連帯保証人は、催告の抗弁権と検索の抗弁権を常に行使できる。

答え・解説

正答：抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。

超簡単な解説：不動産担保でよく利用される。

要点：抵当権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL3-190

契約の解消・債権管理 / 合意解除 / 形式：2択

次のうち、「合意解除」について正しい説明はどちらか。

1. 内容証明郵便を送れば、裁判をしなくても必ず強制執行できる。
2. 当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。

答え・解説

正答：当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。

超簡単な解説：合意解除は当事者の合意に基づく。

要点：合意解除

Q022 BL3-191

契約の解消・債権管理 / 質権 / 形式：2択

次のうち、「質権」について正しい説明はどちらか。

1. 質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。
2. 民事訴訟は、刑罰を科すことだけを目的とする手続である。

答え・解説

正答：質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。

超簡単な解説：占有移転が重要な特徴である。

要点：質権

Q023 BL3-204

契約の解消・債権管理 / 相殺 / 形式：2択

次のうち、「相殺」について正しい説明はどちらか。

1. 表見代理は、相手方が悪意でも常に成立する。
2. 相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。

答え・解説

正答：相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。

超簡単な解説：相殺適状などの要件がある。

要点：相殺

Q024 BL3-205

契約の解消・債権管理 / 内容証明郵便 / 形式：2択

次のうち、「内容証明郵便」について正しい説明はどちらか。

1. 内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。
2. 消費者契約法は、事業者同士の国際売買だけを対象とする法律である。

答え・解説

正答：内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。

超簡単な解説：内容証明自体に強制執行力はない。

要点：内容証明郵便

Q025 BL3-218

契約の解消・債権管理 / 弁済 / 形式：2択

次のうち、「弁済」について正しい説明はどちらか。

1. 定款は、会社設立後には一切意味を持たない。
2. 弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。

答え・解説

正答：弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。

超簡単な解説：支払いや引渡しなどが典型である。

要点：弁済

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL3-219

契約の解消・債権管理 / 仮差押え / 形式：2択

次のうち、「仮差押え」について正しい説明はどちらか。

1. 仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。
2. 独占禁止法は、すべての競争を禁止する法律である。

答え・解説

正答：仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。
超簡単な解説：財産散逸を防ぐために利用される。

要点：仮差押え

Q027 BL3-232

契約の解消・債権管理 / 債権譲渡 / 形式：2択

次のうち、「債権譲渡」について正しい説明はどちらか。

1. 無権代理行為は、本人の意思に関係なく必ず有効となる。
2. 債権は、原則として譲渡できる。

答え・解説

正答：債権は、原則として譲渡できる。
超簡単な解説：譲渡制限特約や対抗要件に注意する。

要点：債権譲渡

Q028 BL3-246

契約の解消・債権管理 / 保証 / 形式：2択

次のうち、「保証」について正しい説明はどちらか。

1. 双務契約では、相手が履行しなくても常に先に履行しなければならない。
2. 保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。

答え・解説

正答：保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。
超簡単な解説：保証契約は書面などの要式が問題となる。

要点：保証

Q029 BL3-260

契約の解消・債権管理 / 連帯保証 / 形式：2択

次のうち、「連帯保証」について正しい説明はどちらか。

1. 著作権は、単なるアイデアそのものを常に保護する。
2. 連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。

答え・解説

正答：連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。
超簡単な解説：連帯保証では催告・検索の抗弁がない。

要点：連帯保証

Q030 BL3-273

契約の解消・債権管理 / 解除 / 形式：2択

次のうち、「解除」について正しい説明はどちらか。

1. 解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。
2. 契約書は、常に法律より優先して適用される。

答え・解説

正答：解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。
超簡単な解説：解除と損害賠償は別に問題となることがある。

要点：解除

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL3-274

契約の解消・債権管理 / 抵当権 / 形式：2択

次のうち、「抵当権」について正しい説明はどちらか。

1. 意匠権は、企業秘密だけを保護する制度である。
2. 抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。

答え・解説

正答：抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。
超簡単な解説：不動産担保でよく利用される。

要点：抵当権

Q032 BL3-287

契約の解消・債権管理 / 合意解除 / 形式：2択

次のうち、「合意解除」について正しい説明はどちらか。

1. 当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。
2. 紛争は、常に裁判以外の方法で解決できない。

答え・解説

正答：当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。
超簡単な解説：合意解除は当事者の合意に基づく。

要点：合意解除

Q033 BL3-288

契約の解消・債権管理 / 質権 / 形式：2択

次のうち、「質権」について正しい説明はどちらか。

1. 契約は、すべて行政庁の許可がなければ成立しない。
2. 質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。

答え・解説

正答：質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。
超簡単な解説：占有移転が重要な特徴である。

要点：質権

Q034 BL3-301

契約の解消・債権管理 / 相殺 / 形式：2択

次のうち、「相殺」について正しい説明はどちらか。

1. 相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。
2. 監査役は、会社の営業担当者を意味する。

答え・解説

正答：相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。
超簡単な解説：相殺適状などの要件がある。

要点：相殺

Q035 BL3-302

契約の解消・債権管理 / 内容証明郵便 / 形式：2択

次のうち、「内容証明郵便」について正しい説明はどちらか。

1. 申込みは、相手方に届かなくても必ず契約を成立させる。
2. 内容証明郵便は、文書の内容と差出人などを証明する手段として利用される。

答え・解説

正答：内容証明郵便は、文書の内容と差出人などを証明する手段として利用される。

超簡単な解説：内容証明自体に強制執行力はない。

要点：内容証明郵便

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL3-315

契約の解消・債権管理 / 弁済 / 形式：2択

次のうち、「弁済」について正しい説明はどちらか。

1. 弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。
2. 仲裁判断は、当事者に一切効力を持たない単なる助言である。

答え・解説

正答：弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。
超簡単な解説：支払いや引渡しなどが典型である。

要点：弁済

Q037 BL3-316

契約の解消・債権管理 / 仮差押え / 形式：2択

次のうち、「仮差押え」について正しい説明はどちらか。

1. 申込みは、相手方に届かなくても必ず契約を成立させる。
2. 仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。

答え・解説

正答：仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。
超簡単な解説：財産散逸を防ぐために利用される。

要点：仮差押え

Q038 BL3-329

契約の解消・債権管理 / 債権譲渡 / 形式：2択

次のうち、「債権譲渡」について正しい説明はどちらか。

1. 債権は、原則として譲渡できる。
2. 職場のハラスメントは、企業の法的リスクと一切関係しない。

答え・解説

正答：債権は、原則として譲渡できる。
超簡単な解説：譲渡制限特約や対抗要件に注意する。

要点：債権譲渡

Q039 BL3-341

契約の解消・債権管理 / 相殺 / 形式：4択

次のうち、「相殺」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 取締役は、会社法上どの会社にも絶対に不要である。
2. 株式会社では、株式を発行することが法律上禁止されている。
3. 相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。
4. 労働組合は、使用者だけで構成される団体である。

答え・解説

正答：相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。
超簡単な解説：相殺適状などの要件がある。

要点：相殺

Q040 BL3-342

契約の解消・債権管理 / 内容証明郵便 / 形式：4択

次のうち、「内容証明郵便」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。
2. 労働組合は、使用者だけで構成される団体である。
3. 危険負担は、契約関係では一切問題とならない。
4. 取締役会設置会社でも、取締役会は一切決定権を持たない。

答え・解説

正答：内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。

超簡単な解説：内容証明自体に強制執行力はない。

要点：内容証明郵便

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL3-355

契約の解消・債権管理 / 弁済 / 形式：4択

次のうち、「弁済」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 製造物責任では、製造物の欠陥は一切問題とならない。
2. 弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。
3. 紛争は、常に裁判以外の方法で解決できない。
4. 賃貸借では、借主は賃料を支払う必要がない。

答え・解説

正答：弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。
超簡単な解説：支払いや引渡しなどが典型である。

要点：弁済

Q042 BL3-356

契約の解消・債権管理 / 仮差押え / 形式：4択

次のうち、「仮差押え」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 所有権は、他人の物を借りる権利にすぎない。
2. 労働者が同意すれば、最低賃金を下回る賃金契約は常に有効である。
3. 仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。
4. 製造物責任では、製造物の欠陥は一切問題とならない。

答え・解説

正答：仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。
超簡単な解説：財産散逸を防ぐために利用される。

要点：仮差押え

Q043 BL3-369

契約の解消・債権管理 / 債権譲渡 / 形式：4択

次のうち、「債権譲渡」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 商号は、個人名以外には法律上認められない。
2. 債権は、原則として譲渡できる。
3. 調停では、当事者の合意は一切不要である。
4. 危険負担は、契約関係では一切問題とならない。

答え・解説

正答：債権は、原則として譲渡できる。
超簡単な解説：譲渡制限特約や対抗要件に注意する。

要点：債権譲渡

Q044 BL3-383

契約の解消・債権管理 / 保証 / 形式：4択

次のうち、「保証」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。
2. 法律行為は、事実行為だけで成立し意思表示を必要としない。
3. 労働者が同意すれば、最低賃金を下回る賃金契約は常に有効である。
4. 保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。

答え・解説

正答：保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。
超簡単な解説：保証契約は書面などの要式が問題となる。

要点：保証

Q045 BL3-397

契約の解消・債権管理 / 連帯保証 / 形式：4択

次のうち、「連帯保証」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 動産の所有権移転では、引渡しはどの場面でも無意味である。
2. 就業規則は、従業員が何人いても法律上作成できない。
3. 保証人は、主たる債務者と無関係に常に無責任である。
4. 連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。

答え・解説

正答：連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。
超簡単な解説：連帯保証では催告・検索の抗弁がない。

要点：連帯保証

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL3-410

契約の解消・債権管理 / 解除 / 形式：4択

次のうち、「解除」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。
2. 委任は、必ず物の所有権を移転する契約である。
3. 景品表示法は、企業の広告表示とは一切関係がない。
4. 個人情報法は、本人に無断で常に自由に第三者へ売却できる。

答え・解説

正答：解除は、契約関係を解消し原状回復などを生じさせる制度である。
超簡単な解説：解除と損害賠償は別に問題となることがある。

要点：解除

Q047 BL3-411

契約の解消・債権管理 / 抵当権 / 形式：4択

次のうち、「抵当権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 時効は、期間が経過すれば裁判所が必ず自動的に適用する。
2. 抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。
3. 調停では、当事者の合意は一切不要である。
4. 職場のハラスメントは、企業の法的リスクと一切関係しない。

答え・解説

正答：抵当権は、目的物の占有を移さずに担保に供する物権である。
超簡単な解説：不動産担保でよく利用される。

要点：抵当権

Q048 BL3-424

契約の解消・債権管理 / 合意解除 / 形式：4択

次のうち、「合意解除」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 意思能力を欠いていても契約書に署名すれば常に有効である。
2. 下請法は、消費者の家族関係だけを定める法律である。
3. 当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。
4. 不公正な取引方法は、独占禁止法上まったく問題にならない。

答え・解説

正答：当事者が合意すれば、契約を合意解除できる。
超簡単な解説：合意解除は当事者の合意に基づく。

要点：合意解除

Q049 BL3-425

契約の解消・債権管理 / 質権 / 形式：4択

次のうち、「質権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。
2. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。
3. 内容証明郵便を送れば、裁判をしなくても必ず強制執行できる。
4. 履行不能の場合も、必ず履行遅滞だけが成立する。

答え・解説

正答：質権は、債権者が目的物を占有して担保とする権利である。
超簡単な解説：占有移転が重要な特徴である。

要点：質権

Q050 BL3-438

契約の解消・債権管理 / 相殺 / 形式：4択

次のうち、「相殺」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。
2. 自然人は成年に達しなければ権利能力を取得しない。
3. 相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。
4. 契約不適合があっても、買主は常に一切の救済を受けられない。

答え・解説

正答：相殺は、対立する同種の債権を対当額で消滅させる意思表示である。
超簡単な解説：相殺適状などの要件がある。

要点：相殺

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL3-439

契約の解消・債権管理 / 内容証明郵便 / 形式：4択

次のうち、「内容証明郵便」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 錯誤があっても、契約は常に絶対に取り消せない。
2. 時効は、期間が経過すれば裁判所が必ず自動的に適用する。
3. 不動産売買では、登記は第三者との関係で一切意味を持たない。
4. 内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。

答え・解説

正答：内容証明郵便は、文書の内容と差出日などを証明する手段として利用される。

超簡単な解説：内容証明自体に強制執行力はない。

要点：内容証明郵便

Q052 BL3-452

契約の解消・債権管理 / 弁済 / 形式：4択

次のうち、「弁済」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 仲裁判断は、当事者に一切効力を持たない単なる助言である。
2. 意思能力を欠いていても契約書に署名すれば常に有効である。
3. 弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。
4. 消費者契約法は、事業者同士の国際売買だけを対象とする法律である。

答え・解説

正答：弁済は、債務の内容に従って給付し債務を消滅させる行為である。

超簡単な解説：支払いや引渡しなどが典型である。

要点：弁済

Q053 BL3-453

契約の解消・債権管理 / 仮差押え / 形式：4択

次のうち、「仮差押え」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 過失とは、故意に相手を害する意思だけをいう。
2. 売買契約では、買主に代金支払義務は発生しない。
3. 権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。
4. 仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。

答え・解説

正答：仮差押えは、将来の強制執行を保全するための手続である。

超簡単な解説：財産散逸を防ぐために利用される。

要点：仮差押え

Q054 BL3-466

契約の解消・債権管理 / 債権譲渡 / 形式：4択

次のうち、「債権譲渡」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 取締役会設置会社でも、取締役会は一切決定権を持たない。
2. 売買契約では、買主に代金支払義務は発生しない。
3. 取締役は、会社法上どの会社にも絶対に不要である。
4. 債権は、原則として譲渡できる。

答え・解説

正答：債権は、原則として譲渡できる。

超簡単な解説：譲渡制限特約や対抗要件に注意する。

要点：債権譲渡

Q055 BL3-480

契約の解消・債権管理 / 保証 / 形式：4択

次のうち、「保証」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. ADRは、裁判所の判決だけを意味する。
2. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。
3. 商標権は、発明そのものを保護する権利である。
4. 保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。

答え・解説

正答：保証人は、主たる債務者が履行しない場合に履行責任を負う。

超簡単な解説：保証契約は書面などの要式が問題となる。

要点：保証

ビジネス実務法務検定試験3級 - 契約の解消・債権管理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q056 BL3-494

契約の解消・債権管理 / 連帯保証 / 形式：4択

次のうち、「連帯保証」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 債務を履行しなくても、契約責任は一切発生しない。
2. 連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。
3. 無権代理行為は、本人の意思に関係なく必ず有効となる。
4. 双務契約では、相手が履行しなくても常に先に履行しなければならない。

答え・解説

正答：連帯保証人には、通常の保証人より強い責任が課される。

超簡単な解説：連帯保証では催告・検索の抗弁がない。

要点：連帯保証